

インターバンクの声（2016年12月19日）

今年最後の米連邦公開市場委員会 (FOMC) が予定通り利上げを行った後でもあり、週末のロンドン、ニューヨーク市場の取引も薄商いになり始めていた。ニューヨーク市場の序盤に発表された11月の米住宅着工件数、建設許可件数がともに市場予想を下回り、ドル売りが進みそうな場面もあったが、米長期金利が上昇していたこともあって円相場は118円を割り込むこともなく、レンジ内での取引が続いた。リッチモンド地区連銀のラッカー総裁が「米連邦準備制度理事会 (FRB) は来年3回以上利上げを実施する必要がある可能性がある」との見方を示したことが金利上昇の背景にもなっていたようだが、金利はその後やや低下に転じている。原油価格が50ドル台から52ドル台に上昇していたことから、複数の強弱相場材料が互いに相殺し合い、市場も穏やかなまま引けそうだった。しかし、ここへ中国の海軍が南シナ海で米国の無人水中探査機を奪ったとの報道が入ってきた為、ドルが円とユーロに対して急に売り込まれた。ニューヨーク市場の終盤には結局半値ほど戻すことにはなるが、報道後のドル円は117円台中盤へ、ユーロは1.04ドル台後半までドル売りが進んだ。週末は市場の反応も一時的で済んでいるが、米中問題が来年の波乱を呼びそうなことを予感させ心配だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。